

## 【建設業動向調査概況】

### 1. 調査概要

産業振興部産業連携開発課では、市内建設業の経営動向を探る手段として、アンケート調査を実施しています。

今回は2024年1月から3月期（1期）の業況について調査を行い、その結果については下記のとおりとなりました。

### 2. 調査実施要領

- (1) 実施時期 2024年5月
- (2) 対象企業 須坂市内に事業所を有する建設業41社  
(土木3社、建築・大工・左官5社、電機5社、水道4社)
- (3) 回答企業数 17社（回答率 41.4%）

### 3. 調査概況

実施要領のとおり動向調査を行った結果、業況判断指数（D I：「好転」と回答した企業割合と「悪化」と回答した企業割合の差）については次のとおりとなりました。

市内建設業の業況は、前期(2023年10月～12月期)より悪化しました。

前期と比べた業況は、「好転」とする企業の割合が17.6%、「悪化」とする企業の割合が47.1%で「好転」から「悪化」を引いた差(D I)は▲29.5ポイントとなりました。

前回の調査結果D Iポイント ▲5.3と比較しますと、24.2ポイント悪化しました。

また、前年同期と比べた業況は、「好転」とする企業の割合が0.0%、「悪化」とする企業の割合が58.8%であり、「好転」から「悪化」を引いた差は▲58.8ポイントとなりました。

業種別の業況判断指数（D I）は、土木関係が33.3ポイント(前回：▲25.0ポイント)、建築関係が▲80.0ポイント(前回：25.0ポイント)、電機関係が▲20.0ポイント(前回：▲14.3ポイント)、水道関係が▲25.0ポイント(前回：0.0ポイント)となっております。

3か月後の次期予想では、「好転」とする企業の割合が0.0%、「悪化」とする企業の割合が58.8%であり、「好転」から「悪化」を引いた差は▲58.8ポイントとなり、今期より悪化すると予想されます。

経営上の問題点(複数回答可)については、「人材不足」、「受注減少」、「原材料・仕入単価の上昇」が58.8%、「労働力不足」が29.4%、「技術力不足」と「同業他社との競争激化」が23.5%、「金融難」が11.8%、「人員過剰」、「工期短縮」、「原材料不足」が0.0%となっております。

Q9 日銀松本支店が4月1日に発表した、企業短期経済観測調査(短観)によると、全産業の業況判断指数(DI)は前回調査(12月)から2ポイント悪化のプラス1となり、4期ぶりの悪化となりました。非製造業は約33年ぶりの改善でしたが、製造業は自動車関連の生産の減少などが影響し、悪化。自社の景況感をどのように感じておられますか。

A 「変わらない」29.4%、「今はないが、今後悪化が見られる」、「悪化している」とともに35.3%。

Q10 ① 能登地震、台湾地震での企業活動への影響はありましたか。

A 「影響はなかった」100.0%。

Q10 ※影響があった場合、どちらの影響を受けましたか。

A 「影響なし」100.0%。

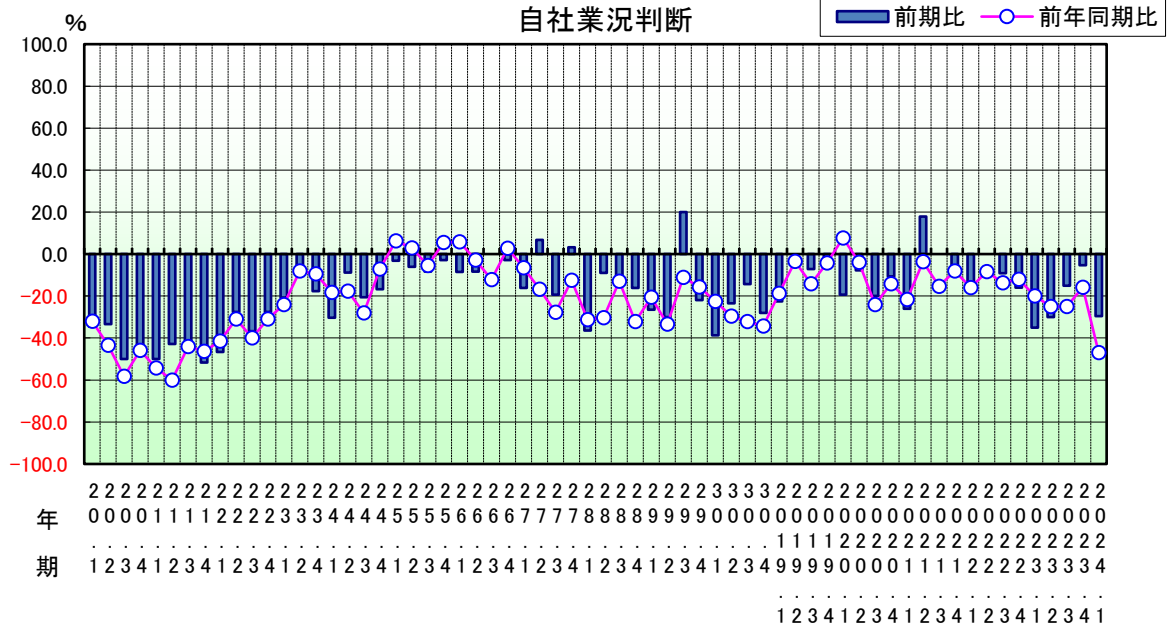
Q10 ② 現時点でも能登地震、台湾地震の影響はありますか。

A 「ない」100.0%

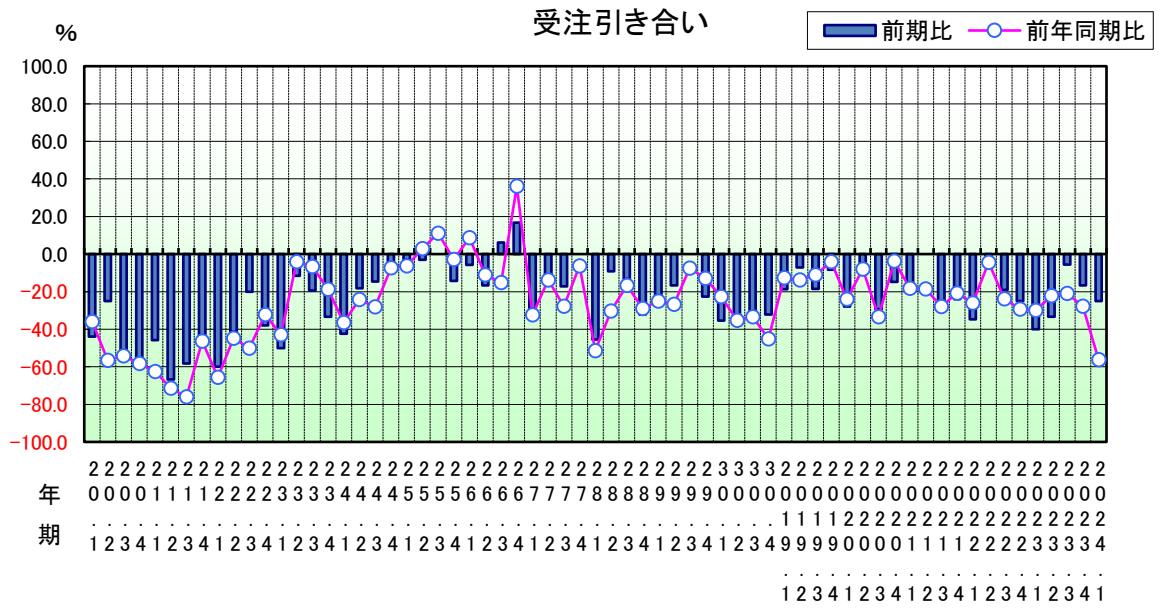
Q11 その他経営上の問題について

A 「求人を出しても問い合わせがない。雇用できない。」、「借入れが多いので大変です。」、「安定した経営を続けていくため、技術者の育成や適性工期の確保など課題がある。」等。

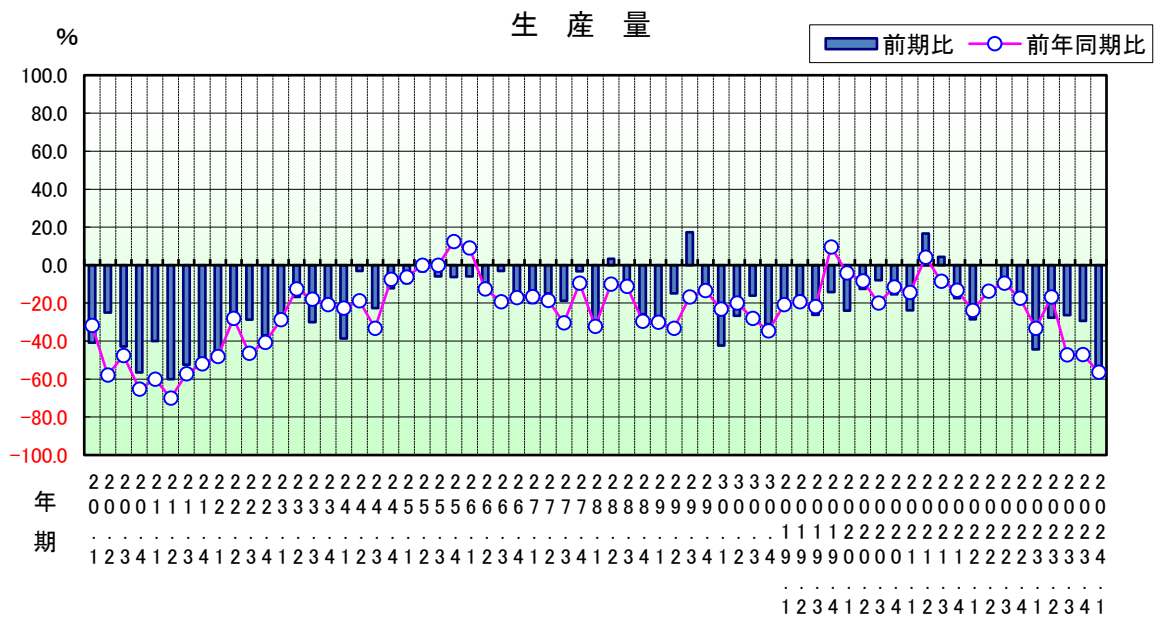
### 自社業況判断



### 受注引き合い



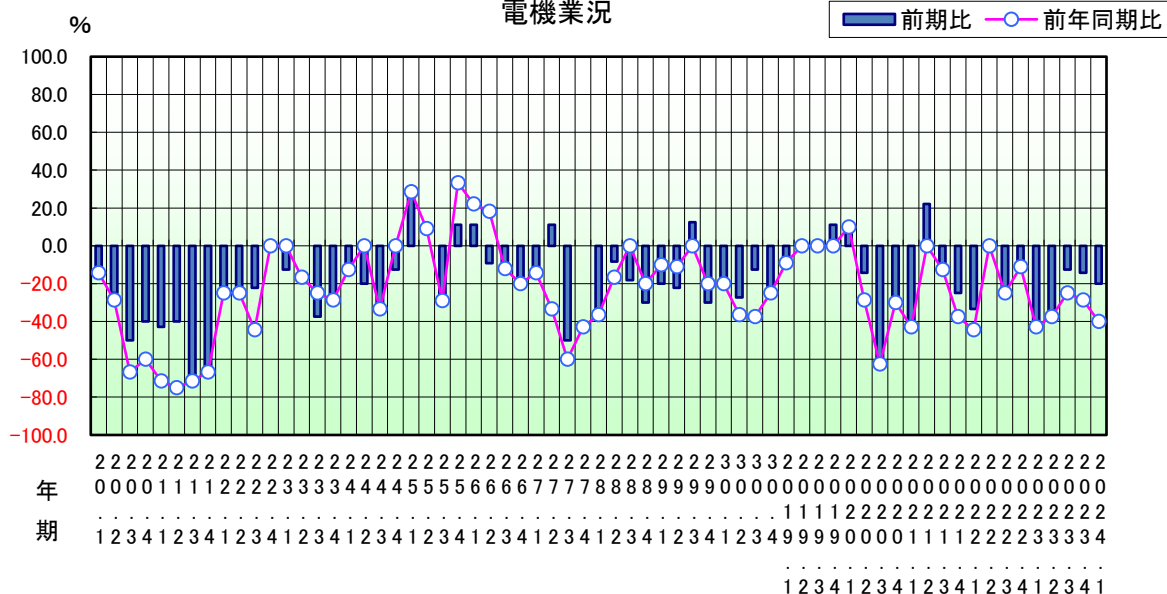
### 生産量



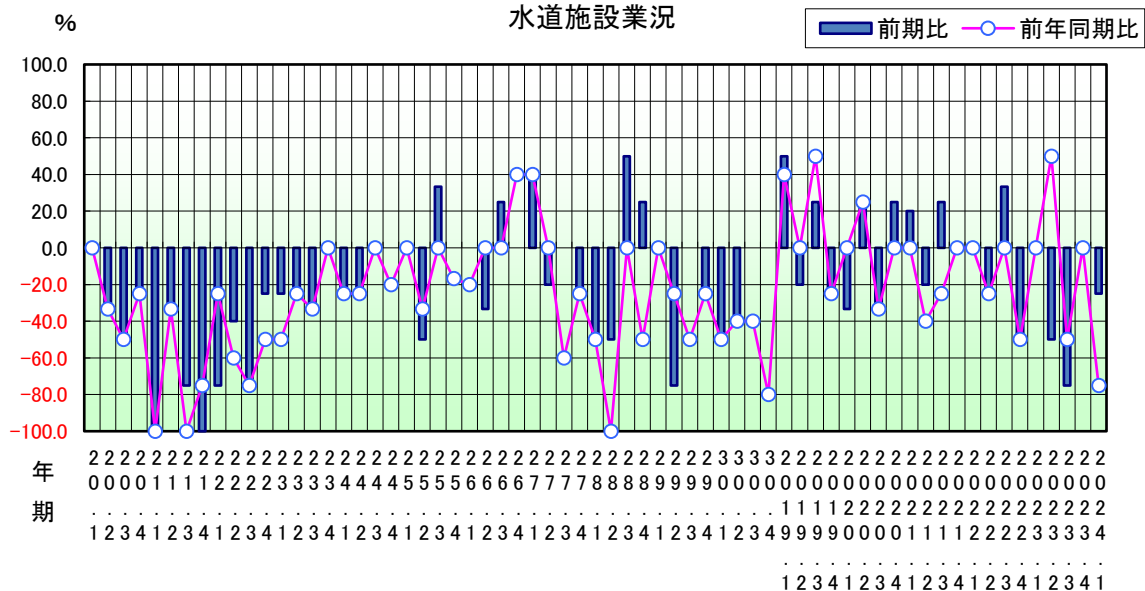




### 電機業況



### 水道施設業況



## 【建設業動向調査概況】

### 1. 調査概要

産業振興部産業連携開発課では、市内建設業の経営動向を探る手段として、アンケート調査を実施しています。

今回は2024年4月から6月期(2期)の業況について調査を行い、その結果については下記のとおりとなりました。

### 2. 調査実施要領

- (1) 実施時期 2024年8月
- (2) 対象企業 須坂市内に事業所を有する建設業41社  
(土木4社、建築・大工・左官3社、電機8社、水道3社)
- (3) 回答企業数 18社(回答率 43.9%)

### 3. 調査概況

実施要領のとおり動向調査を行った結果、業況判断指数(DI:「好転」と回答した企業割合と「悪化」と回答した企業割合の差)については次のとおりとなりました。

市内建設業の業況は、前期(2024年1月～3月期)より好転しました。

前期と比べた業況は、「好転」とする企業の割合が22.2%、「悪化」とする企業の割合が33.3%で「好転」から「悪化」を引いた差(DI)は▲11.1ポイントとなりました。

前回の調査結果DIポイント ▲29.5と比較しますと、18.4ポイント好転しました。

また、前年同期と比べた業況は、「好転」とする企業の割合が17.6%、「悪化」とする企業の割合が52.9%であり、「好転」から「悪化」を引いた差は▲35.3ポイントとなりました。

業種別の業況判断指数(DI)は、土木関係が25.0ポイント(前回:33.3ポイント)、建築関係が66.7ポイント(前回:▲80.0ポイント)、電機関係が▲25.0ポイント(前回:▲20.0ポイント)、水道関係が▲100.0ポイント(前回:▲25.0ポイント)となっております。

3か月後の次期予想では、「好転」とする企業の割合が17.6%、「悪化」とする企業の割合が35.3%であり、「好転」から「悪化」を引いた差は▲17.7ポイントとなり、今期より悪化すると予想されます。

経営上の問題点(複数回答可)については、「人材不足」が66.7%、「受注減少」が61.1%、「労働力不足」が55.6%、「原材料・仕入単価の上昇」が44.4%、「技術力不足」が27.8%、「同業他社との競争激化」が22.2%、「金融難」が11.1%、「人員過剰」、「工期短縮」、「原材料不足」が0.0%となっております。

Q9 日銀松本支店が7月1日に発表した、企業短期経済観測調査(短観)によると、全産業の業況判断指数(DI)は、前回調査(3月)から2割悪化のマイナス1となり、3期連続の悪化となりました。製造業は、マイナス13割と2割悪化し、非製造業は、プラス13割と3割悪化しました。自社の景況感をどのように感じておられますか。

A 「変わらない」、「今はないが、今後悪化が見られる」、「悪化している」ともに33.3%。

Q10 ①原材料の高騰、円安等による経費増加分の価格への転嫁はできていますか。

A 「できている」44.4%、「できていない」50.0%、「無回答」5.6%。

Q10 ②1できていると答えた方にお聞きします。価格への転嫁率は何パーセントですか。

A 転嫁できている(8社)  
「5%」1社、「10%」2社、「10~30%」1社、「80%」1社、「無回答」2社、「その他(8%引き上げで元請けと交渉中)」1社。

Q11 ①従業員の賃金状況はいかがですか。

A 「今年度引き上げた、もしくは引き上げ予定」61.1%、「現状維持」33.3%、「回答できない(個人事業主で被雇用者がいない等)」5.6%。

Q11 ②1今年度引き上げた、引き上げ予定と答えた方にお聞きします。平均の引上げ率は約何パーセントですか。

A 賃金引上げ数(11社)  
「0.009%」1社、「3%」3社、「4%」3社、「5%」2社、「14.3%」1社、「無回答」1社。

Q12 その他経営上の問題について

A 「借入金が多いので大変です。」









## 【建設業動向調査概況】

### 1. 調査概要

産業振興部産業連携開発課では、市内建設業の経営動向を探る手段として、アンケート調査を実施しています。

今回は2024年7月から9月期(3期)の業況について調査を行い、その結果については下記のとおりとなりました。

### 2. 調査実施要領

- (1) 実施時期 2024年10月
- (2) 対象企業 須坂市内に事業所を有する建設業41社
- (3) 回答企業数 19社(回答率 46.3%)  
(土木3社、建築・大工・左官5社、電機7社、水道4社)

### 3. 調査概況

実施要領のとおり動向調査を行った結果、業況判断指数(DI:「好転」と回答した企業割合と「悪化」と回答した企業割合の差)については次のとおりとなりました。

市内建設業の業況は、前期(2024年4月～6月期)より悪化しました。

前期と比べた業況は、「好転」とする企業の割合が15.8%、「悪化」とする企業の割合が42.1%で「好転」から「悪化」を引いた差(DI)は▲26.3ポイントとなりました。

前回の調査結果DIポイント ▲11.1と比較しますと、15.2ポイント悪化しました。

また、前年同期と比べた業況は、「好転」とする企業の割合が10.5%、「悪化」とする企業の割合が47.4%であり、「好転」から「悪化」を引いた差は▲36.9ポイントとなりました。

業種別の業況判断指数(DI)は、土木関係が▲33.3ポイント(前回:25.0ポイント)、建築関係が20.0ポイント(前回:66.7ポイント)、電機関係が▲42.9ポイント(前回:▲25.0ポイント)、水道関係が▲50.0ポイント(前回:▲100.0ポイント)となっております。

3か月後の次期予想では、「好転」とする企業の割合が0.0%、「悪化」とする企業の割合が31.6%であり、「好転」から「悪化」を引いた差は▲31.6ポイントとなり、今期より悪化すると予想されます。

経営上の問題点(複数回答可)については、「人材不足」が57.9%、「受注減少」と「原材料・仕入単価の上昇」が47.4%、「労働力不足」が31.6%、「技術力不足」が21.1%、「同業他社との競争激化」が15.8%、「金融難」が5.3%、「人員過剰」、「工期短縮」、「原材料不足」が0.0%となっております。

Q9 日銀松本支店が10月1日に発表した、企業短期経済観測調査(短観)によると、全産業の業況判断指数(DI)は、前回調査(6月)と同様のマイナス1ポイントとなりました。製造業は、マイナス15ポイントと2ポイント悪化し、非製造業は、プラス14ポイントと1ポイント好転しました。自社の景況感をどのように感じておられますか。

A 「好転している」10.5%、「今はないが、今後好転が見られる」5.3%、「変わらない」42.1%、「今はないが、今後悪化が見られる」26.3%、「悪化している」15.8%。

Q10 ①DXを活用した業務効率化等に興味ありますか。

A 「興味があり、既に取り組んでいる」10.5%、「興味はあるが、取り組んでいない」57.9%、「興味がない」31.6%。

Q10 ②DXに取り組んでいる場合は、その内容を教えてください。また、課題や次に取り組みたい内容があれば教えてください。

A 「零細企業にはDXに取り組む余裕がない。DXがよくわからない。」、「ペーパーレス、インターネットを活用した人員の手配や現場管理、出来高管理や時間外労働の管理など。」

Q10 ③DXに取り組んでいない場合は、その理由を教えてください。

A 「何から取り組んだらいいかわからない」、「取り組みたい分野があるが、専門知識が不足している」とともに26.3%、「取り組みたい分野があるが費用面に不安がある」10.5%、「取り組みたい分野があるが人手が足りない」21.1%、「その他(興味がない)」5.3%、「無回答」26.3%。

Q10 ④DXについて学べる機会があれば、利用したいですか。

A 「利用したい」42.1%、「利用しない」47.4%、「無回答」10.5%

Q11 その他経営上の問題について

A 「代表の体調不良で開店休業状態です。」、「人材不足の中で、新しい技術やシステムを取り入れ、対応が必要なこと。」









## 【建設業動向調査概況】

### 1. 調査概要

産業振興部産業連携開発課では、市内建設業の経営動向を探る手段として、アンケート調査を実施しています。

今回は2024年10月から12月期(4期)の業況について調査を行い、その結果については下記のとおりとなりました。

### 2. 調査実施要領

- (1) 実施時期 2025年1月
- (2) 対象企業 須坂市内に事業所を有する建設業41社
- (3) 回答企業数 16社(回答率 39.0%)  
(土木2社、建築・大工・左官4社、電機7社、水道3社)

### 3. 調査概況

実施要領のとおり動向調査を行った結果、業況判断指数(DI:「好転」と回答した企業割合と「悪化」と回答した企業割合の差)については次のとおりとなりました。

市内建設業の業況は、前期(2024年7月～9月期)より好転しました。

前期と比べた業況は、「好転」とする企業の割合が12.5%、「悪化」とする企業の割合が12.5%で「好転」から「悪化」を引いた差(DI)は0.0ポイントとなりました。

前回の調査結果DIポイント ▲26.3と比較しますと、26.3ポイント好転しました。

また、前年同期と比べた業況は、「好転」とする企業の割合が12.5%、「悪化」とする企業の割合が31.3%であり、「好転」から「悪化」を引いた差は▲18.8ポイントとなりました。

業種別の業況判断指数(DI)は、土木関係が0.0ポイント(前回:▲33.3ポイント)、建築関係が0.0ポイント(前回:20.0ポイント)、電機関係が0.0ポイント(前回:▲42.9ポイント)、水道関係が0.0ポイント(前回:▲50.0ポイント)となっております。

3か月後の次期予想では、「好転」とする企業の割合が6.3%、「悪化」とする企業の割合が37.5%であり、「好転」から「悪化」を引いた差は▲31.2ポイントとなり、今期より悪化すると予想されます。

経営上の問題点(複数回答可)については、「原材料・仕入単価の上昇」が62.5%、「人材不足」が56.3%、「受注減少」が37.5%、「技術力不足」が31.3%、「労働力不足」が25.0%、「同業他社との競争激化」が12.5%、「原材料不足」が6.3%、「人員過剰」、「工期短縮」、「金融蟻蝕」が0.0%となっております。

Q9 日銀松本支店が12月13日に発表した、企業短期経済観測調査(短観)によると、全産業の業況判断指数(DI)は、前回調査(9月)と比較して、1ポイントプラスとなりました。製造業はマイナス14ポイントと1ポイント好転し、非製造業は、プラス14ポイントと横ばいでした。自社の景況感をどのように感じておられますか。

A 「好転している」6.3%、「変わらない」56.3%、「今はないが、今後悪化が見られる」、「悪化している」とも18.8%。

Q10 セミナーや講習等、従業員に受講させたいテーマがあれば教えてください。(複数回答)

A 「設計や加工等技術的な内容に関する講習」12.5%、「パソコン操作等事務の基本に関する講習」18.8%、「コミュニケーション技術や意欲向上等に関する講習」、「リーダーシップや組織管理等管理職向けの講習」とも12.5%、「業界の最新動向に関する講習」6.3%、「ビジネスマナーなど若手社員向けの研修」12.5%、「その他(登録解体工事講習)」6.3%。

Q11 問10のうち、特に受講させたいテーマについて、具体的な内容をご記入ください。

A 「4 コミュニケーション技術や意欲向上等に関する講習。コロナ禍以降、コミュニケーション不足を感じているので。」、「エクセルの操作を学び現場管理に役立てたい。」、「常設基盤講座」。

Q12 問11のセミナーや講習等について、開催を希望する時期があればご記入ください。

A 「4月～6月」、「年間を通して」。

Q13 その他経営上の問題について

A 「代表の高齢化。体調不良。」、「原材料費の高騰やエネルギーコストの上昇。」







